



くまののみや

令和3年10月

第120号

出雲一宮
熊野大社
崇敬会

日常の五つの心

1. 「ハイ」という素直な心。
2. 「すみません」という反省の心。
3. 「オカゲサマ」という謙虚な心。
4. 「アリガトウ」という感謝の心。
5. 「ワタシガシマス」という奉仕の心。

鑽火祭が間近です。この祭りは出雲大社宮司（出雲國造）殿が出雲大社の古伝新嘗祭を始め諸祭で用いる熊野大神さまの浄火、具体的には鑽火の燧臼・燧杵を授かりに参拝されるものです。祭りでは出雲大社からお供えにと差し出された神餅に社人・亀太夫が公事（出来栄等に苦言）を申し立てる亀太夫神事が、出雲大社宮司殿の百番の舞が含まれます。大正天皇の御大典記念として大

で長い間、現在松江市大庭町の神魂神社で奉仕されており、明治二十五年（一八九二）の【古伝祭事取調書】によると、「熊野大社では毎年十一月一日に鑽火器を奉製し、古伝新嘗祭執行の十一月中卯日の前日の寅日に鑽火器の發送式を奉仕、そして亀太夫が神魂神社へそれを木箱の唐櫃に納め、従者と共に奉持して行った」とあります。そしてこの資料と同年の写本の【出雲大社古伝新嘗祭】に

鑽火祭 — その成立前史 —

熊野大社宮司 熊野 高裕

正四年（一九一五）、出雲大社宮司千家尊統公（第八十二代出雲國造）により起こされた同社宮司殿奉仕の祭りです。

さて、こうした鑽火祭ですが、鑽火器授与のこの儀式は、それ以前から存在しており、今度はその様子について、限られた当社資料からみてみたいと思います。

そもそも古伝新嘗祭ですが、その始源のことは別として、江戸期末ま

は、その後「神魂神社では古伝新嘗祭当日に先ず鑽火器の持参式が奉仕され、その上で新嘗祭がつとめられた」と記されています。尚、当資料に「神の使い」の亀太夫の「はばかり無しのもの言」の状況にも触れてあり、今を思いつつ伝統神事の継承の厚みを感じます。

そして明治期になると、古伝新嘗祭の祭場は神魂神社から出雲大社へ移り、出雲大社の神職が熊野大社へ

参拝し、鑽火器の授与式に臨み、持ち帰るようになりました。

授与式の期日は先述の明治二十五年の【古伝祭事取調書】には「十一月十七日」とありますが、その後の大正四年資料【鑽火祭日改定并復興御届】には、「十一月十三日」とあります。十一月十七日は出雲大社の同月二十三日の古伝新嘗祭の準備の関連日（御饗井祭奉任日）で、また十一月十三日は古伝新嘗祭の鑽火器の授与と深く関わる熊野大社の江戸期の祭神の祭り・櫛御気野命祭の執行日です。出雲大社と熊野大社共に古伝新嘗祭を意識してのものと考えられますが、鑽火器の授与祭の在り方には考えの違いがあり、そのため途中で調整、祭日を変更したのではないかと思います。

以上が鑽火祭成立以前の歴史概要です。鑽火の儀を含む古伝新嘗祭の始源は熊野大社にあるといわれる中、時を経て大正期に出雲大社宮司殿ご自身の奉仕でのこの鑽火祭は設けられ、継承されております。まことに有り難く、そして重く思います。

秋のおおみまつり



例 大 祭 10月14日 (木曜日) 午前10時
 鑽 火 祭 10月15日 (金曜日) 午前10時

亀太夫神事

ご案内

〔氏〕 子・崇敬会員・篤信者の皆様方には、熊野大神さまの御加護のもと益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

来る十月十四日例大祭、十月十五日鑽火祭を皆様と共にご奉仕申し上げ人々の幸福、社会の繁栄、世界の平和を祈願し、働きを尽くすための御霊力を戴きたいものと存じます。

熊野大社 宮 司 熊野高裕
 〃 氏子会会長 石倉憲昭
 〃 崇敬会会長 岡崎朝臣

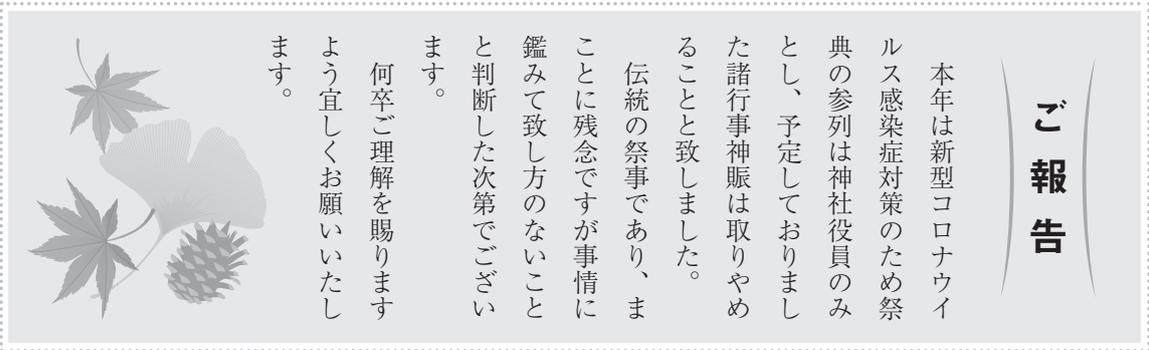
氏子
 崇敬会員 各位
 篤信者

ご報告

本年は新型コロナウイルス感染症対策のため祭典の参列は神社役員のみとし、予定しておりました諸行事神賑は取りやめることと致しました。

伝統の祭事であり、まことに残念ですが事情に鑑みて致し方のないことと判断した次第でございます。

何卒ご理解を賜りますよう宜しくお願いいたします。



ご祈念のご案内

生命を与えて下さって日々ご守護を戴いている大神さまへ感謝の心をささげ、更に新しい生命力・御霊力を戴き、めまぐるしく変化していく現代社会を心惑うことなく正しく生きぬいていくことが出来来ますように、秋のおおみまつりにご祈念のお取次ぎをいたしております。お申込み下さい。

一、ご祈念料 伍千円以上
 (一つの願いごとにつき五、〇〇〇円以上です)

一、願いごと
 家内安全。 商売繁昌。 良縁。 会社発展。 従業員安全。 厄除。 交通安全。 身体健康。 五穀豊穰。 安産。 病氣平癒。 進学成就。 諸願成就。 海上安全。 大漁満足。 その他ご希望の願いごと。

一、ご祈念を希望されます方は同封の振替用紙に、ご住所、ご氏名、ご年令、ご祈念料を明記してお申込み下さい。
 一、ご祈念をしたお守はお送りいたしません。又ご参拝の際は受付所にお申し出下さい。

尚、電話、ファックスでも受付いたします。当社へお問合せ下さい。
 TEL 0852-54-0087
 FAX 0852-54-0249
 です。

秋のみまつり・例大祭十月十四日(木曜日)午前十時

令和2年度 熊野大社崇敬会決算書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

収入の部

費目	予算額	決算額	比較増減(△)	摘要
会費	6,000,000	5,415,822	△ 584,178	現会員 1,377名 5,185,822円 新会員 66名 230,000円
奉納金	270,000	117,000	△ 153,000	「熊野の大神さま」授与料(117冊)
繰越金	30,000	126,400	96,400	前年度より繰越
合計	6,300,000	5,659,222	△ 640,778	

支出の部

費目	予算額	決算額	比較増減(△)	摘要
会議費	100,000	0	△ 100,000	
事業費	4,790,000	4,347,600	△ 442,400	
1. 祭典日供神饌費	600,000	600,000	0	熊野大社奉納金
2. 神賑助成費	700,000	700,000	0	〃
3. 諸建字保持費	600,000	600,000	0	〃
4. 広告助成費	600,000	600,000	0	〃
5. 絵馬初穂料	500,000	500,000	0	〃
6. 機関紙制作費	500,000	347,600	△ 152,400	「くまの乃宮」9,500部・印刷代 1月 2,500部・4月 4,000部・ 10月 3,000部
7. 事業資金積立金	1,290,000	1,000,000	△ 290,000	令和2年度積立金
事務費	1,300,000	1,116,294	△ 183,076	通信費 1,059,524円 印刷費 57,400円
雑費	100,000	4,000	△ 96,000	会費(鳥根県保護観察協会)
予備費	10,000	0	△ 10,000	
合計	6,300,000	5,468,524	△ 831,476	

収入 5,659,222円
 支出 5,468,524円
 差引残高 190,698円
 (次年度へ繰越)

上記の通り収入支出を経理致しました。

令和3年3月31日

熊野大社崇敬会

令和3年度 熊野大社崇敬会予算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

収入の部

費目	本年度	前年度	比較増減(△)	摘要
会費	5,700,000	6,000,000	△ 300,000	現会員 5,400,000円 新会員 300,000円
奉納金	200,000	270,000	△ 70,000	「熊野の大神さま」授与料(200冊)
繰越金	100,000	30,000	70,000	前年度より繰越
合計	6,000,000	6,300,000	300,000	

支出の部

費目	本年度	前年度	比較増減(△)	摘要
会議費	100,000	100,000	0	
事業費	4,550,000	4,790,000	△ 240,000	
1. 祭典日供神饌費	600,000	600,000	0	熊野大社奉納金
2. 神賑助成費	700,000	700,000	0	〃
3. 諸建字保持費	600,000	600,000	0	〃
4. 広告助成費	600,000	600,000	0	〃
5. 絵馬初穂料	500,000	500,000	0	〃
6. 機関紙制作費	450,000	500,000	△ 50,000	「くまの乃宮」9,000部・印刷代 1月 3,000部・4月 3,000部・ 10月 3,000部
7. 事業資金積立金	1,100,000	1,290,000	△ 190,000	
事務費	1,250,000	1,300,000	△ 50,000	通信費 1,100,000円 印刷費 150,000円
雑費	90,000	100,000	△ 10,000	
予備費	10,000	10,000	0	
合計	6,000,000	6,300,000	△ 300,000	

収入 6,000,000円
 支出 6,000,000円
 差引残高 0円

上記の通り収入支出を計上致しました。

令和3年3月31日

熊野大社崇敬会

秋のみまつり・鑽火祭十月十五日(金曜日)午前十時

熊野大社崇敬会 入会のおすすめ

熊野大神の御神徳を奉戴し、敬神崇祖の誠を致し健全なる国民精神の高揚に努め広く国家社会の繁栄に寄与するを目的とし、その達成のため

- ①熊野大神の御神徳発揚の為祭典、神事、行事及び諸建字整備と保持に奉賛。
- ②会員相互の親睦を計る為機関紙を発行。
- ③必要とする事業を行う。

- 一、会費
- 個人会費(年額)参千円以上
- 団体会費(年額)五千円以上
- 一、待遇
- (イ)会員誕生日は健康と繁栄和楽を祈願、日供祭は全会員の安寧を祈願します。
- (ロ)春秋大祭にご案内します。
- (ハ)新春神迎の「御神符」千支の絵馬をお届けします。

(ニ)会員章を差し上げます。熊野大神さまから幸福のご縁が戴かれますようご入会のご案内を申し上げます。お知り合いの方々へのご勧誘をお願い申し上げます。



春の暖かな日差しの中、古式にのっとりした御櫛祭を厳粛に斎行した。祝詞奏上後の後、御本殿にお供えした「御櫛」を宮司が奉持して稲田姫を祀る稲田神社に奉獻し、祝詞を奏上、次に拝殿に於いて巫女舞（幣舞、浦安の舞）が奉納された。次いで玉串拝礼が行われ、祭儀は恙なく終了し、お供えされた櫛は境内で行われていた籤引きで

御櫛祭

— 御田植神事 —

四月十三日 午前十時



当たった参拝者に授けられた。コロナ蔓延抑制のため、御田植神事とその他神賑わいは残念ながら今年も中止となった。



新型コロナウイルス感染症

皆様が笑顔で過ごせる日々を
1日も早い終息を
お祈りいたします

当社は安心してお参り出来るよう可能な限りの感染症対策を行っております。皆様のご協力をお願いします。



五月二十四日

元宮祭
—天宮山遥拝—

木々の間を初夏のさわやかな風が吹く中、上の宮の元宮遥拝所へ登り、天宮山を遥かに拝んで元宮祭が執り行われた。

本年も残念ながらコロナ感染の危険を避けるため参列を呼び掛けることはせず、熊野大社役員のみでの齋行となった。

遥拝所にて、登拝者全員で大祓詞を奉唱の後、齋主が祝詞を奏上、次いで代表者が玉串拝礼をして元宮祭を終了した。



八月二十三日

ふるさとまつり
中止奉告祭

本来であれば去年中止となった第三十八回熊野ふるさとまつりが齋行される予定日であったが、五月の段階でコロナ禍の終息の兆しがまだまだ見えない状態であったためコロナ感染の危険を考慮し中止が決定していたため、大神にふるさとまつりが中止となったことを奉告するとともに一日も早いコロナ禍終息を願うお祭りが、ふるさとまつりを運営する予定だった各団体長の参列のもと執り行われた。

熊野大社における「コロナ対策」について

全国各地から様々な方が来られているため、参拝をされる際は次の点に御留意下さい。

- 熱のある方、体調等優れない方のご参拝はお控えください。
- マスクの着用を厳守ください。
- 手水は柄杓を撤去しておりますので流水にておねがいます。
- モノに触れる前、モノに触れた後等には設置してある消毒液をご利用ください。

- 御朱印は「書置き」にて対応させていただきます。
- 御祈念は検温・マスクの着用・出来るだけ少人数の昇殿をお願いしております。

- 祭典は神職及び関係者のみの参列とさせていただきます。
- 当社への参拝が難しい方は郵送にて御祈願・御守の授与を承っております。

<p>マスクを着用してください</p> <p>PLEASE WEAR A MASK</p>	<p>飛沫防止用シート設置中</p> <p>AEROSOL BARRIERS IN USE</p>
<p>検温にご協力ください 37.5度以上の場合入場をご遠慮ください。</p> <p>TEMPERATURE CHECK NO ENTRY IF OVER 37.5°C</p>	<p>神社でご用意した御朱印を授与しています</p> <p>LOOSE-LEAF GOSHUIN ONLY</p>
<p>職員のマスク着用</p> <p>ALL STAFF ARE WEARING MASKS</p>	<p>発熱・体調のすぐれない方はご遠慮ください</p> <p>PLEASE DO NOT ENTER IF YOU HAVE A TEMPERATURE OR FEEL UNWELL</p>

大祓・夏越祭

— 茅の輪神事 —

六月三十日 午後四時

この日、随神門に氏子の方々が熊野地内で専用に管理している茅場の茅を刈り取って作られた直径二・五メートルほどの大きな茅の輪が取り付けられ、大祓式に続く

て夏越祭を奉仕した。
その昔、蘇民将来が当社御祭神素戔鳴尊より茅の輪を授けられ、疫病・災禍から逃れられたという故事に倣い、新型コロナウイルスの終息を願って早朝より多くの参拝者が随神門茅の輪をくぐり参拝。正月から六月までの半年間に知らず知らずのうちに身についた「つみ」が「けれ」を祓い清めて、これから迎える夏の暑さにも負けず、

献 詠

松江短歌の会

雨風の和らぐあいまに漂い来ミントの香り居間のわれまで

木下 みゆき

コロナ万延はらはらしつつ終わりたるオリンピックに一応方歳

土井 郁子

青じそが庭いっばいの夏休み手巻き寿司する筈だったのに

新谷 国子

ワクチンの副作用熱治まりぬ平茶碗手にひとり茶を点つ

岩田 明美

大橋川の蛇行いつまで保たむかひとつの町をあたふたと消して

安部 洋子

山に咲く合歓のうすべに車窓よりながめ届かぬさみしさにある

古志 節子

台風に飛ばされてきた大きシート鉢を倒して居座つてゐる

福島 伸子



心身ともに健康で過ごさせて戴きますようにと深い祈りを捧げた。
今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神楽の奉納や金魚すくい、灯籠に火を灯す等の神賑は全て中止とした。

十月・十一月・十二月 おまつりの日

十月

一日 早旦祭・奉賽祭

十四日 例大祭(午前十時)

十五日 鑽火祭(午前十時)

合祀記念祭(午後)

十六日 月次祭・奉賽祭

三十一日 御狩安全祈願祭

十一月

一日 早旦祭・奉賽祭

御狩始祭

十五日 月次祭・奉賽祭

神在祭

二十八日 新穀感謝祭

紐落し

町内外の七・五・三才のお子様、ご都合の良い日におまいり下さい。

十二月

一日 早旦祭・奉賽祭

十五日 月次祭・奉賽祭

二十日 御煤払

三十一日 大祓・除夜祭

